

見れば見るほどキュート



LCK619
問 ラブラーク
TEL.06-6786-3002
<https://lck-619.com>
<https://lovelark.com>

この発想はなかった。もとの赤いボディ+ピアノブラック。
子供の塗り絵じゃないんだから……。いや、でも待てよ
なんだ、この心境の変化は？ 初めに感じた違和感は何だったのか。
去り際に、みな同じことを考えていたのか、口をそろえてこう言った。
LCK619 アルトワークスは、見れば見るほどキュートだね



Cover Story

SPORTY BLACK → *Red* IMPACT

HA36S ALTO WORKS
by **LCK619**

岡田幸一=文 河野マルオ=写真
Text by Koichi Okada Photographs by Maruo Kono

これがラブラック流
飽きさせないパーツづくり

エアロパーツメーカーの超老舗、あの「ラブラック」をバックボーンに、HA36アルトワークス登場以降、あらたなブランドとして立ち上がったのがLCK619（エルシーケーロクイチキユー）。36アルトのアフターパーツをメインに、エアロパーツ、LEDテールランプ、ブレーキキックなどをラインナップしている。

ラブラックは現在、CORAZON（コラゾン）というスバル系のアフターパーツブランドも展開。1月に開催された東京オートサロンには、同ブランドのワイドボディキットなどを纏ったレヴォーグを出展。カスタムカーコンテストのミニバン・ワゴン部門で、優秀賞を獲得したことで話題になったばかり。そのレヴォーグのボディキットをデザインした凄腕モデラーこそ、このワークスをつくり、LCK619のエアロパーツや、さらに言うとハイエース界を席巻している「415 COBRA」ブランドを統括するプロデューサーでもある。

業界を知り尽くしたラブラックのプロダクトセンスたるや、数々の実績からしても他を圧倒。長い同社の歴史を振り返れば、業界を知り尽くしているどころか、いまに続くクルマのアフターパーツマーケットを種から育てた立役者と言っても過言ではない。だから、LCK619の名がアルトオーナーに知り渡るにはさほど時間は要しなかった。ラブラック

のことをまったく知らなくともだ。

なぜなら、比較論ではなく、絶対的にカッコイイから。それでいて、いままでの作品やこのアルトワークスを見ても、どこかに「カワイイ」が入っていることも特徴として挙げられる。我々外野が評論する資格はないかもしれないが、全体の1割、2割程度、どこか愛くるしさを感じるのだ。理由はおそらく「調和」だと分析している。クルマそのものとエアロパーツ。また、エアロパーツ同士……。その、どれもケンカしていないと感じる。仕上がったクルマを見たときに「角がナイ」というのが正しいか……。尖っていない、尖っているように見えないのがセンスを感じるどころ。

このアルトワークス。きつと初見は違和感を感じるはず（これもラブラック流の魅せるワザ）。だが、時間が経てば経つほど、その違和感を包み込むぐらいに、各パーツのクオリティ、クルマとの一体感、カラーリングまでもが見る側の感覚までも調和させてしまい、ゾーンにはめられる。我々がまさにそうだったようにだ。逆を言えば、この時間こそ、オーナーたちを飽きさせないポイントになってくる。

LCK619こだわりの
新着アイテムを添削

さて、そのLCK619アルトワークスは、同社の新作パーツが装着され、この度リメイク。新着パーツはフ

知れば知るほどゾーンにはめられる



SPORTY BLACK
→ Red IMPACT
HA36S ALTO WORKS
by LCK619

超人気アイテムのLEDテール

ウインカーには
シーケンシャルが内蔵



アルトのカスタムユーザーの間でかなりの装着率を誇る超人気アイテム。カラバリは、クリアレンズとスモークレンズがあり、それぞれにL字型のライトバーが白か赤が選べるようになっていて、全4タイプからチョイス可能。税別価格はクリアレンズが3万6000円、スモークレンズが3万8000円。36アルトの全モデルに適合。

特徴はシーケンシャル（流れる）ウインカーが内蔵されていること。取り付けに関しては一切加工要らずのカブラーオン設計。



2020 New Item

フロントから見るとブラック、リアから見るとレッドというまるで別のような二面性を持たせたカラーリング。かなりの“IMPACT”。

フロントエアロフェンダーは、サイドダクト&後方ダクトともダメージではなく、リアルに開口部がつけられている。リアはドアを開けたときのフィニッシュにまで、造形が行き届いている。



フロントエアロフェンダー、リアフェンダー、それとルーフスポイラー Type 02の3点。2月に開催された大阪オートメッセのラブラックブースで初披露され一般に公開。メッセで

はスズキブースに展示されていた純正のアルトワークスを除いては、アルトワークスはLCK619にしかなかったたので、アルトに注目していた方なら、すでにご存知かもしれない。

大阪オートメッセで初披露された LCK619 のフロントエアロフェンダーとリアフェンダー。前後ともオーバーサイズになっていて、出幅は約9mm。リアは純正フェンダーに沿ってデザインされているが目目はフロント。サイドダクトとその後方にもダクトが配され、サイドダクト上部と後方ダクトがつながる角張ったラインが新たに形成。純正フォルムとは明らかな違いが出るようになっている。

ワイドなシルエットをつくり出す
斬新なデザインのエアロフェンダー

LCK619 エアロフェンダー

Specifications

| | |
|---------------------------|----------|
| フロントスポイラー Type 02 | 2万2000円 |
| フロントグリル Type 02 | 1万8000円 |
| BAD FACE エアバルジボンネット Type2 | 5万5500円 |
| インタークーラーガイドトラスト用 | 1万6000円 |
| サイドディフューザー | 3万8000円 |
| ルーフスポイラー Type02 | 2万8500円 |
| ウエストスポイラー | 1万8000円 |
| リアディフューザー Type01 | 2万8000円 |
| フロントエアロフェンダー 単品 | 7万6000円 |
| リアフェンダー 単品 | 2万9800円 |
| エアロフェンダーセット（フロント/リアセット） | 9万5800円 |
| ECUカバー | 8200円 |
| マスターシリンダーカバー | 5700円 |
| ブレーキローターキャリパーキット | 16万3000円 |
| ※価格は税別 | |

| | |
|------------|----------------------------------|
| ホイール | WORK SEEKER GX (16x6.5J inset42) |
| タイヤ | トーヨータイヤトランパス LUK (165/50-16) |
| サスペンション | CUSCO Street A |
| シート&シートレール | BRIDE XERO |

だが、ニューデモカーはそのときとかなりイメージが違っているのだから、あらためてじっくりとご覧頂きたい。新作のフェンダーは9mmワイドになる仕様。リアは純正フェンダーの上から貼付するタイプだが、フロントのエアロフェンダーは純正フェンダーと交換して装着。純正とトレッドされることで、新たなフォルムを築くことが可能。ルックスもさることながら、ワイドになることでホイールやタイヤの選択肢も増える。

そして注目ポイントとしては、フロントフェンダーのサイドと後方に実際に開口部が開けられたダクト部分。ボンネットも同社のエアバルジ付きのボンネットに交換されているが、エンジンルームの熱気をフェンダーダクトからアウトレットさせることで、さらなるフレッシュエアを導入させることが可能。これならドレスアップユーザーのみならず、サーキットユーザーにとってもアドバンテージになる。

また、シャコタンユーザーやサーキットを全開で攻める走り屋のアルトワークスに多いが、タイヤで純正の樹脂フェンダー巻き込んでしまい、割ってしまうケースは、あるある。なハナシ。鉄板ならさほど重症にはならないが、樹脂の場合はイキと損傷が大きくなる。そんなケースにもLCK619のフロントエアロフェンダーは、そのバックアップとしてもかなり一石二鳥だ。

一方のニューアイテムは、ルーフスポイラーType02。すでにType



SPORTY BLACK Red IMPACT

HA36S ALTO WORKS
by LCK619

Tuning Item



運転席と助手席はブリッドの次世代フルバケットシートのXEROを装着。スポーティというテーマにはぴったりの演出がされていた。



ブレーキは同社のブレーキキャリパー&ローターキットに交換。余裕のある上質なブレーキフィールになりドレスアップ効果も絶大。



ホイールはワーク シーカー GX。センターキャップは同社の差し色キャップ。スズキ純正ホイールに差し色を入れることができる。



デモカーにはJworksのマフラーとエアクリナーを装着。マフラーはテールエンドがブラックのJblack。赤黒ツートーンとも良くマッチ。





アルトワークス専用設計による同社のフロントグリルType02を装着。簡単にオーナーメントレス化ができて表情が豊かになる。

パッドフェイスボンネットのノーズ側が前方に延長され、その先端がヘッドライト上部にかかり、少し悪めの顔つきへと一新。



リアのハッチゲートのガラス下に装着するウエストスポイラー。ワイパー穴の有無、カメラ穴の有無が選べるようになっている。

純正のリアバンパーボトムに装着するリアディフューザー。フィンが5本のType01と4本の02がある。4本はセンターマフラー対応。



ワークス&ターボRSの純正サイドステップ下部に装着するサイドディフューザー。ボリュームは控えめだがアクセントとしては十分。



天面にダクトがついたパッドフェイスエアバルジボンネットType2。裏側のつくり込みにまでシッカリとこだわる。



LCK619には2種類のフロントスポイラーがラインナップされていてこちらはType02。エッジを効かせ過ぎないラウンドフォルム。

Exterior



ルーフスポイラー Type02

エアロフェンダー同様、大阪オートメッセで初公開された新作のルーフスポイラー。ワンピースながら主翼と翼端板から構成されるような凝ったデザインバージョンアップ。主翼は航空機のフラップを思わせる3Dデザインになっている。

フラップデザインの
段付主翼

New 2020 Item

つけてもつけても飽きない

新作以外では既存のラインナップのなかでも特にオーナーから人気なのが、フロントスポイラーとボンネット。LCK619のアルト用パーツの核となるアイテム。フロントスポイラーはType01とType02を設定。前者はスカート部の突出がやや大きく取られ、ダイナミックな意匠に。Type01に関しては競技部品としての扱い。

このニューデモカーに装着されているフロントスポイラーが後者のType02。Type01に対してはボリュームは控え目。しかしながら純正バンパーとの一体感は見事。見た目の印象はハードというよ

**ボンネットは全4種類
オーナーたちの期待に応える**

付けに必要な両面テープやタッピングビスは商品に同梱される。

だけ個性を出せるということ。「計算高い」というと揶揄する言葉のようにも聞こえるが、このボンネットだけでなく、すべてにおいて計算され尽くしているのがLCK619だ。

りむしろソフト。やさしいアールで構成され可愛さもある。スポーティーな雰囲気からは、また違った趣になる。

ボンネットはパッドフェイスエアバルジボンネットType02を装着じつはLCK619には、Type01〜04まで4つのボンネットがある。Type01がパッドフェイスでエアバルジなし。Type02がパッドフェイスでエアバルジ付き。Type03がプッチパッドフェイスのエアバルジ付き。Type04がノーマル形状のエアバルジ付き。それぞれ微妙に違うのだが、選択肢があるというのはユーザーにとってはそれ